

嶺北地域の医療の現状と課題 (地域医療構想の協議に向けて)

平成30年10月2日

第1回日本一の健康長寿県構想嶺北地域推進協議会

医療計画・地域医療構想の検討

1. ダウンサイジング

－人口減に伴う医療需要の減少への対応

2. 機能分担と連携

① 嶺北と嶺北外

- ・ 超急性期、急性期、回復期、慢性期

② 嶺北地域内

- ・ 嶺北中央病院と民間病院との連携

③ 病床機能再編

- ・ 急性期と回復期の再編
- ・ 慢性期の縮小と転換

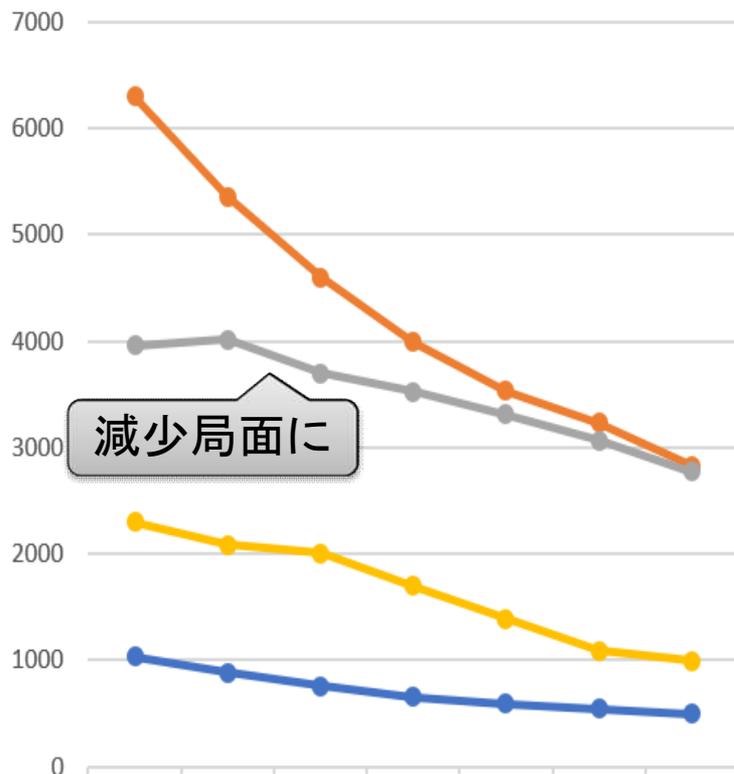
1. ダウンサイジング

- 既に、人口減に伴い、外来と急性期・回復期の入院需要は減少中。
- 後期高齢者が人口減に転じたことと連動して、2015年(平成27年度)から慢性期の入院需要も減少局面に突入
- それに伴い3病院の療養病床の病床利用率も減少
- ここ数年、急性期・回復期の入院医療を担う嶺北中央病院の入院患者数が減少
- 2015年から2025年の間に、嶺北全体で外来患者が18%減、入院患者が11%減

入院、外来ともに、医療機能のダウンサイジングが必要

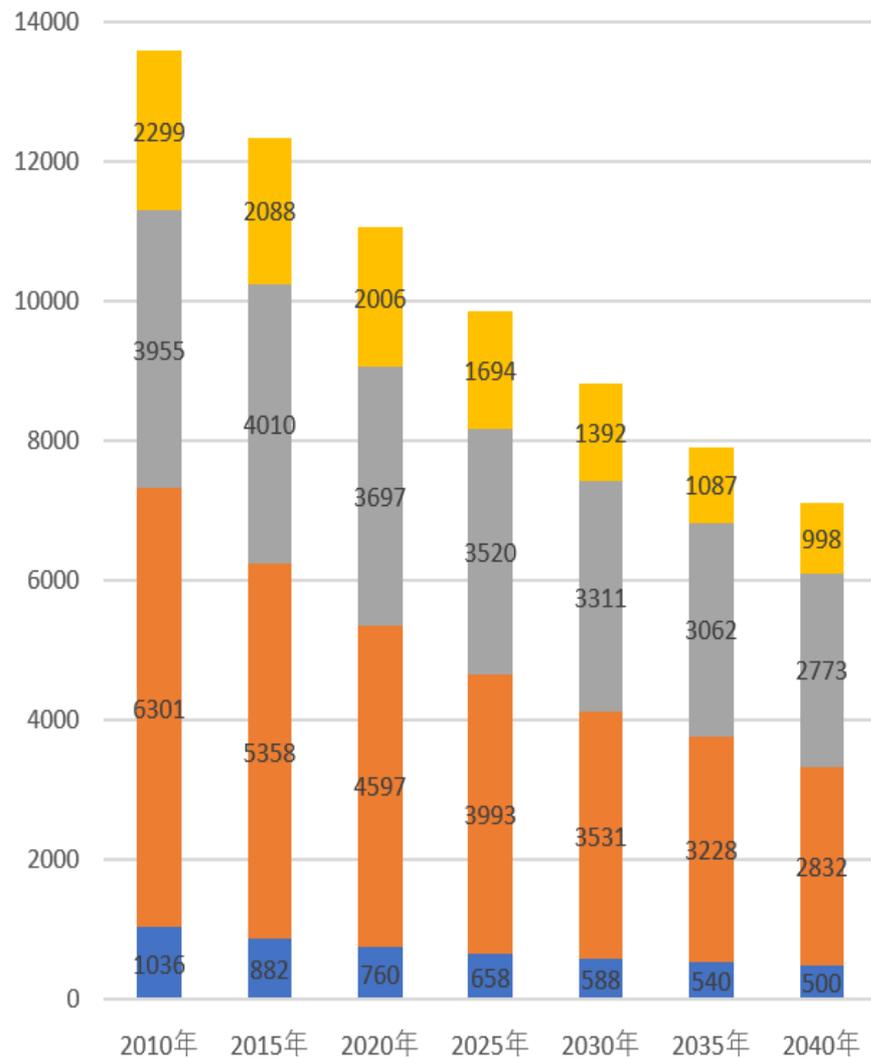
後期高齢者も減少局面に入り、入院患者も減少し始めた

嶺北4町村の人口推計

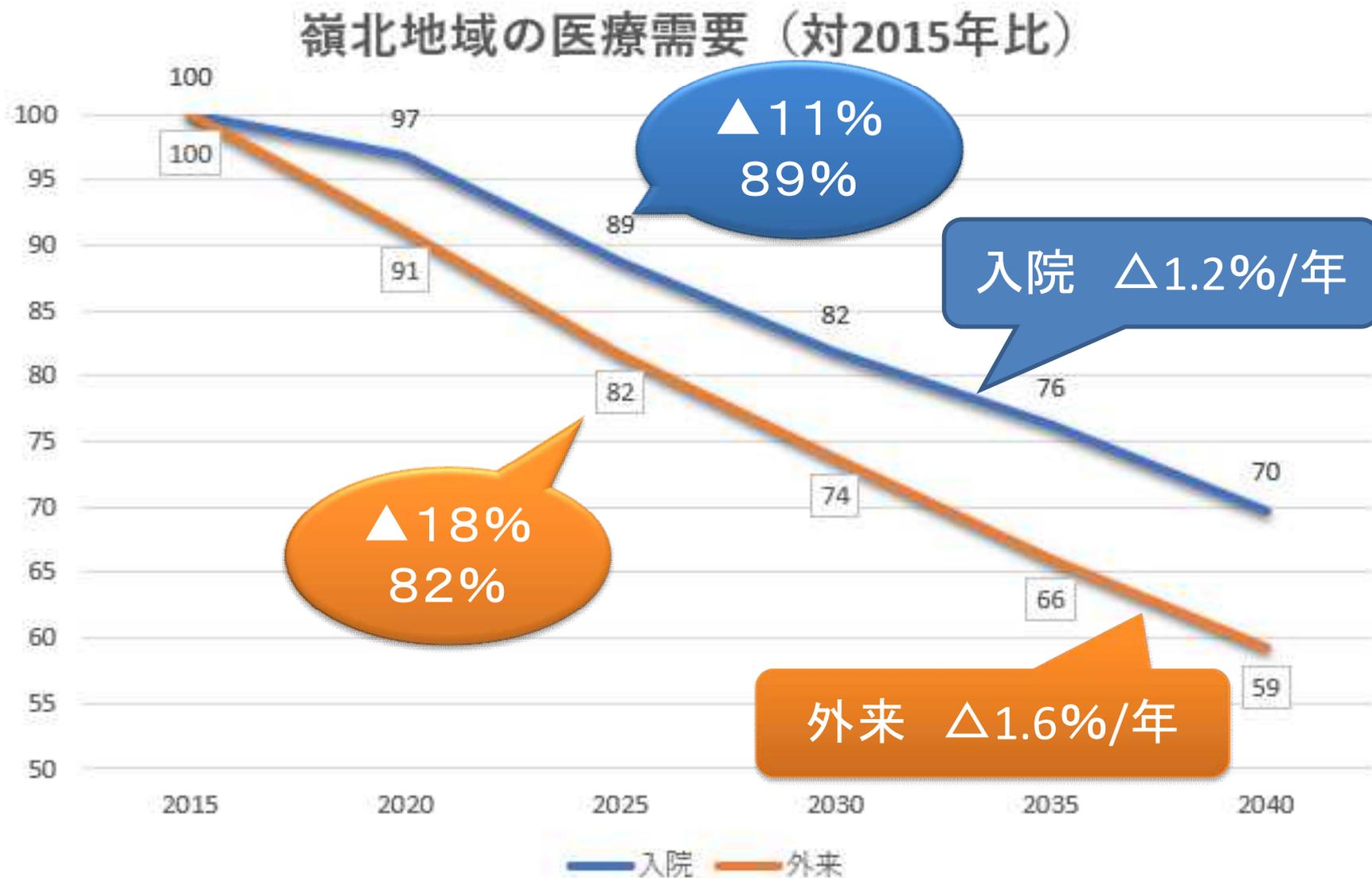


	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
0～14歳	1036	882	760	658	588	540	500
15～64歳	6301	5358	4597	3993	3531	3228	2832
75歳以上	3955	4010	3697	3520	3311	3062	2773
65～74歳	2299	2088	2006	1694	1392	1087	998

嶺北4町村の人口推計

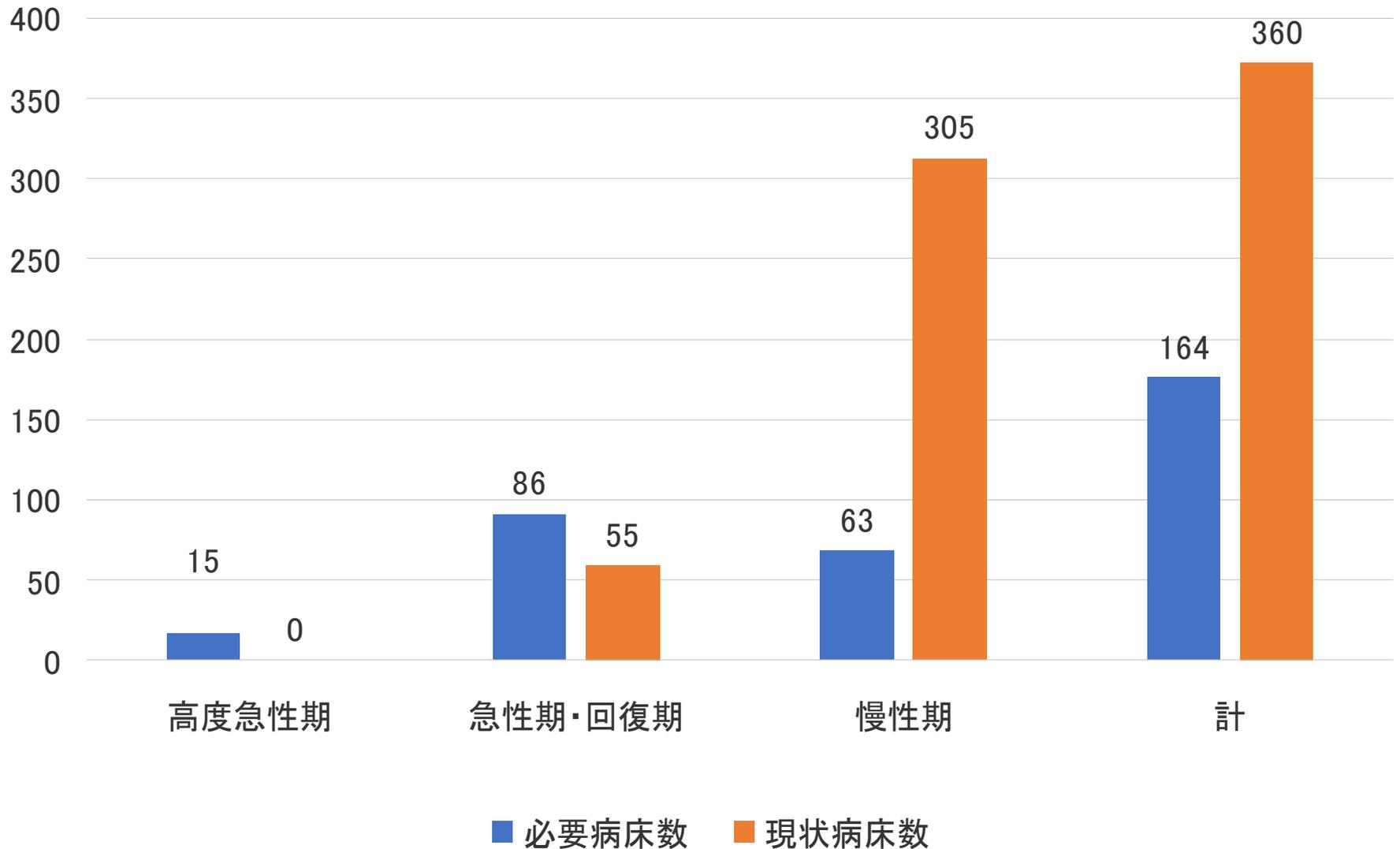


2025年には、外来18%減、入院11%減



2025年必要病床数と現状の病床数

(必要病床数は、中央圏域分を人口按分)



2. 機能分担と連携 ①嶺北と嶺北外

(1) 超急性期(救急医療)

- 嶺北消防救急搬送のうち嶺北内で44%(嶺北中央病院が41%)をカバーし、高知市に44%、南国市に5%が流出
- 医療センター、日赤、近森、高知医大の4病院で45%
- 近年、管外搬送割合が高くなる傾向

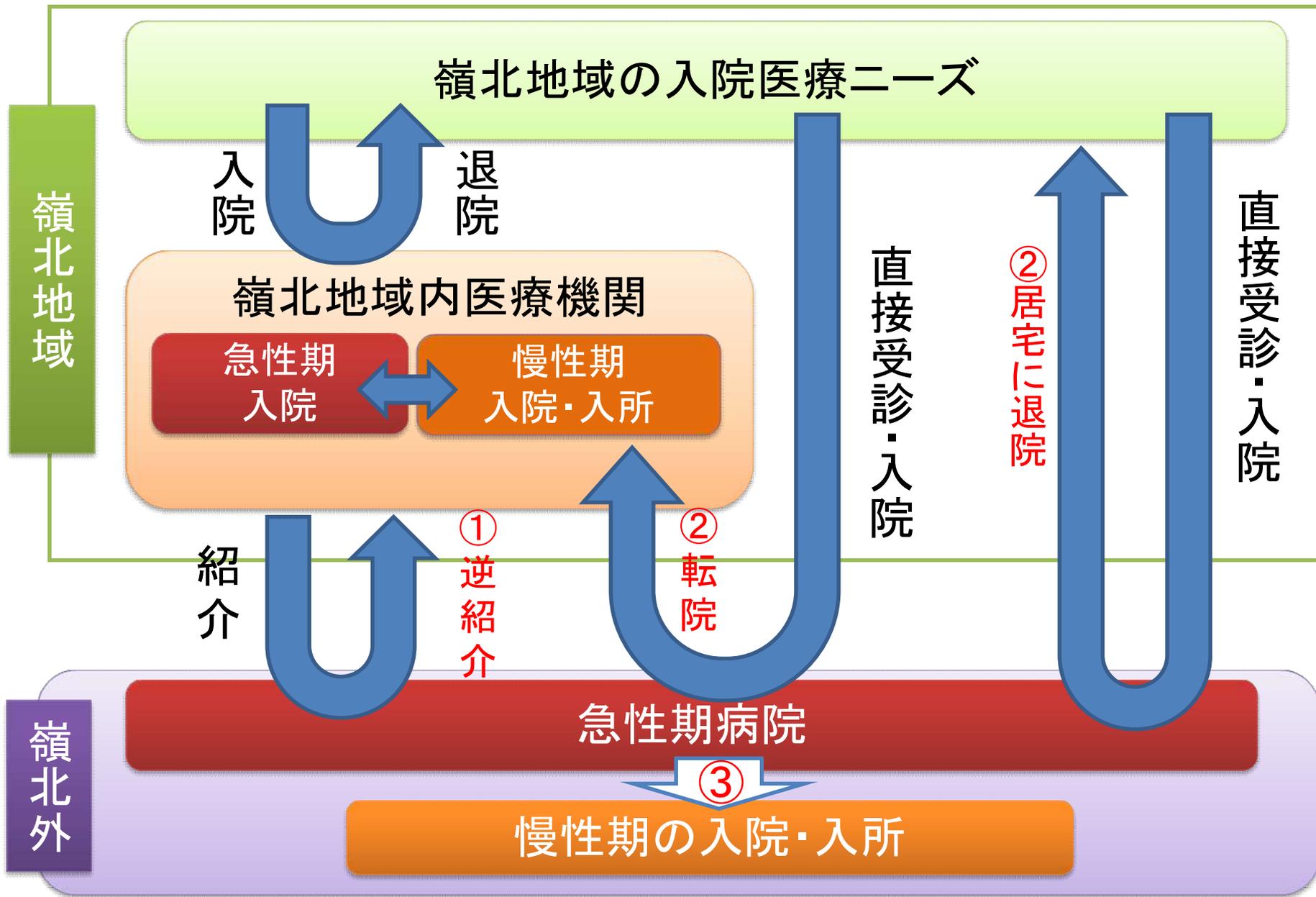
(2) 急性期と回復期

- 嶺北中央病院から紹介した患者の連携は良好
- 嶺北中央病院を介さない管外急性期病院に入院した患者の現状とその転帰は？

(3) 慢性期

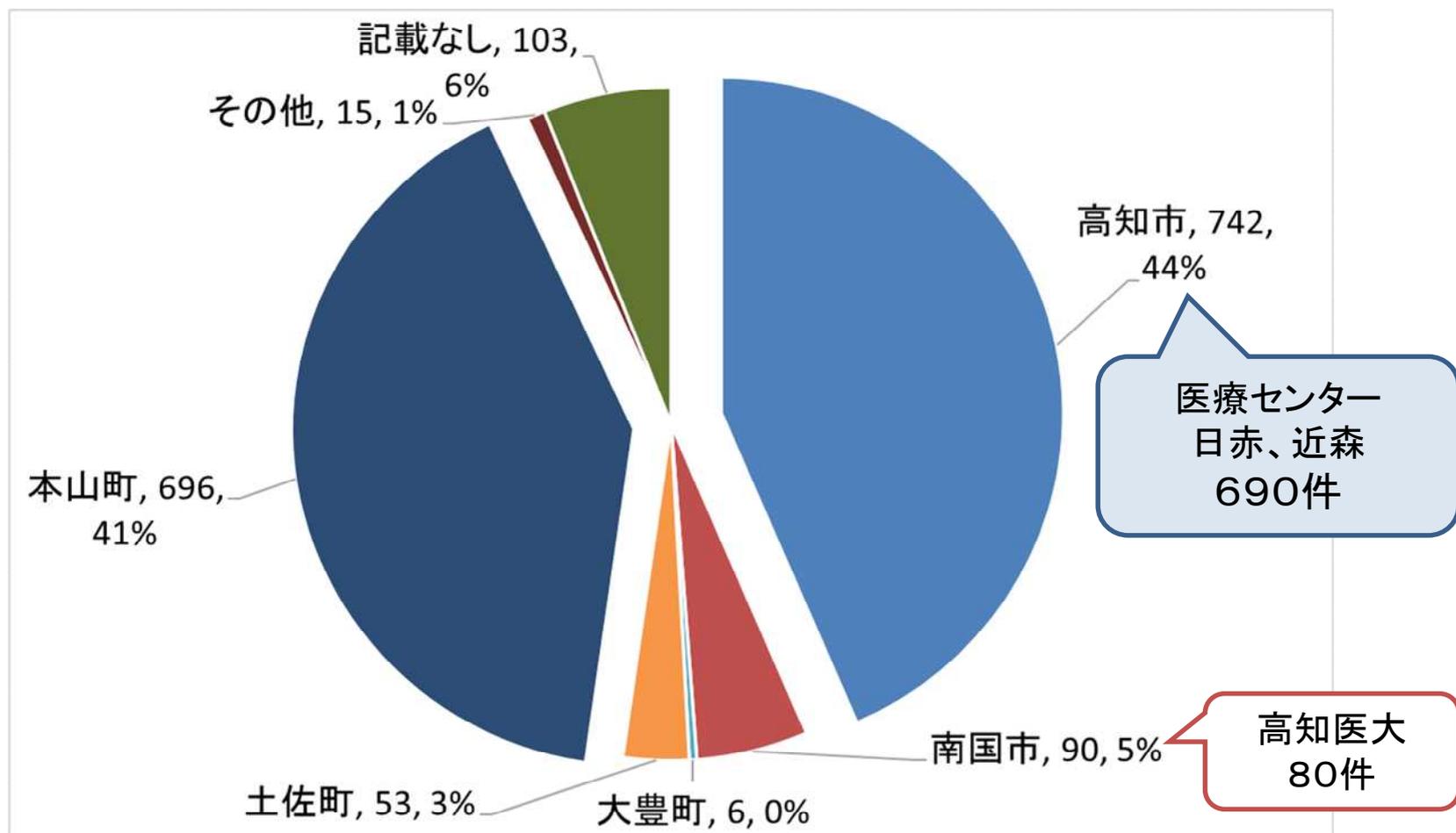
- 嶺北内で8割をカバー(大豊町は7割)
- 2割の流出中、嶺北に戻ることを希望する者は？

嶺北と嶺北外の機能分担と連携、嶺北内の機能分担と連携



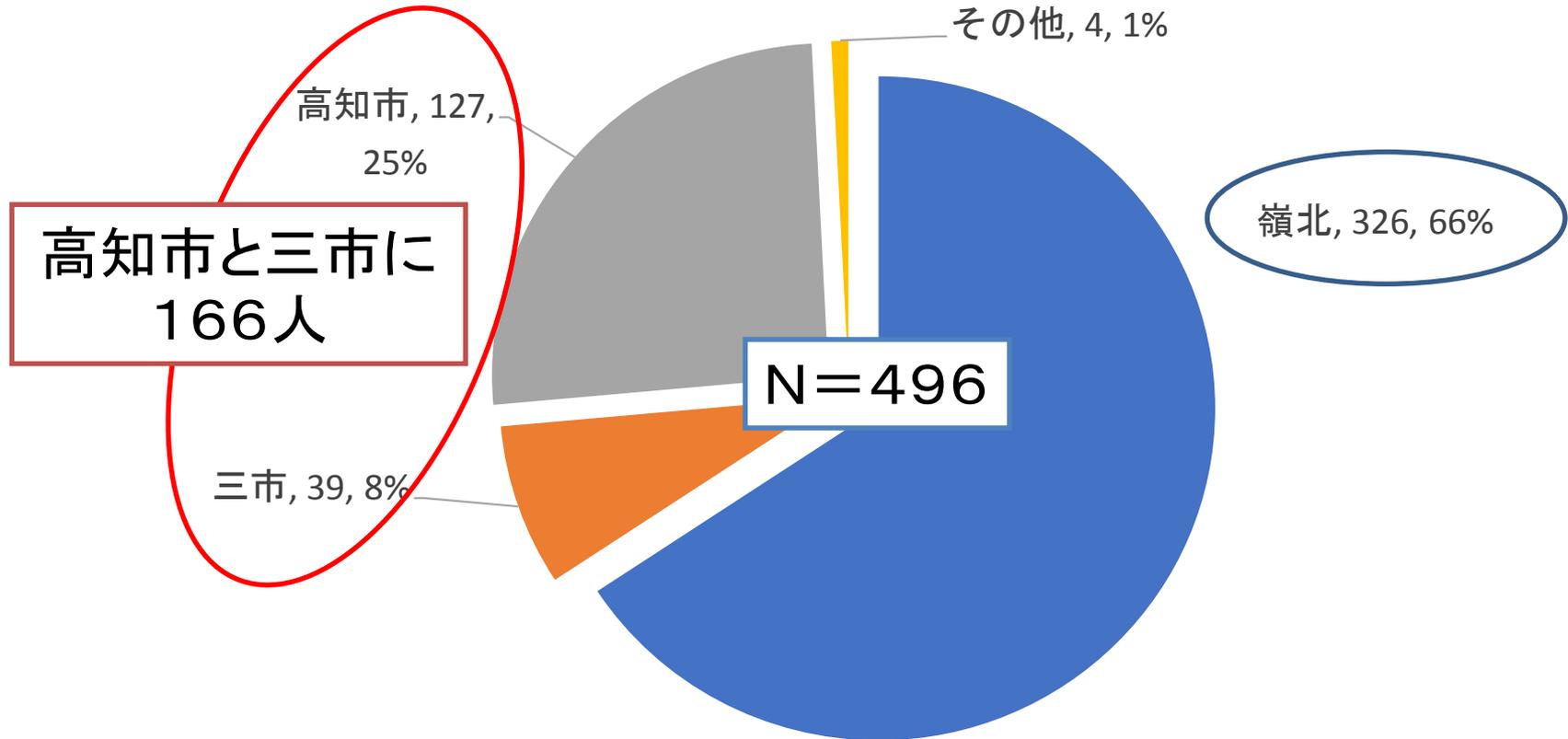
(1) 超急性期(救急医療)

- ・超急性期は、高知市と南国市の高度医療を担う病院
- ・嶺北消防による救急搬送(H27-28年:N=1705)



(2)急性期・回復期

嶺北地域の入院患者496名中、2/3の326名が嶺北内に入院
(平成28年9月高知県患者調査)



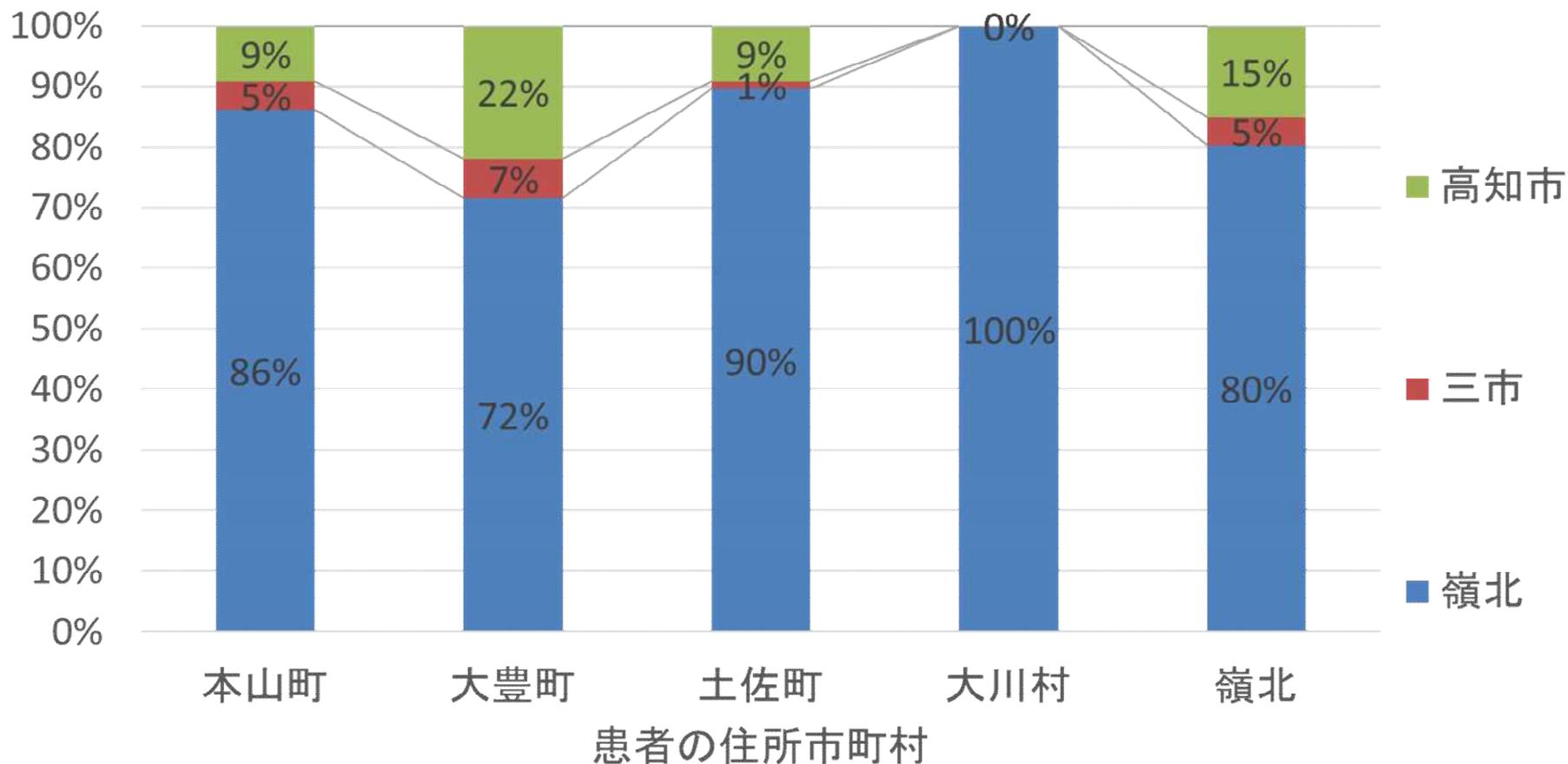
療養病床に入院 61人(平成27年度療養病床調査)
精神科病院に入院 70人(平成17年度患者調査から推計)
を除くと、36人程度が、高知市と三市に入院

⇒高度医療、特殊診療科の入院を除くと、他の急性期と回復期の入院の嶺北内
カバー率は高いのではないか？

(3) 慢性期医療(療養病床)

- 療養病床入院311人の内、250人(80%)が嶺北内に入院
- 管外流出は、高知市に47人(15%)、三市に14人(5%)、合計61人(20%)
 - 大豊町:高知市と三市に43人(29%)
 - 管外入院61人の内、嶺北に戻ることを希望している者がどの程度いるかは不明

患者住所別にみた療養病床の所在地(H27年)



嶺北外流出患者数(人)

	本山町	大豊町	土佐町	大川村	嶺北
三市	3	10	1	0	14
高知市	6	33	8	0	47

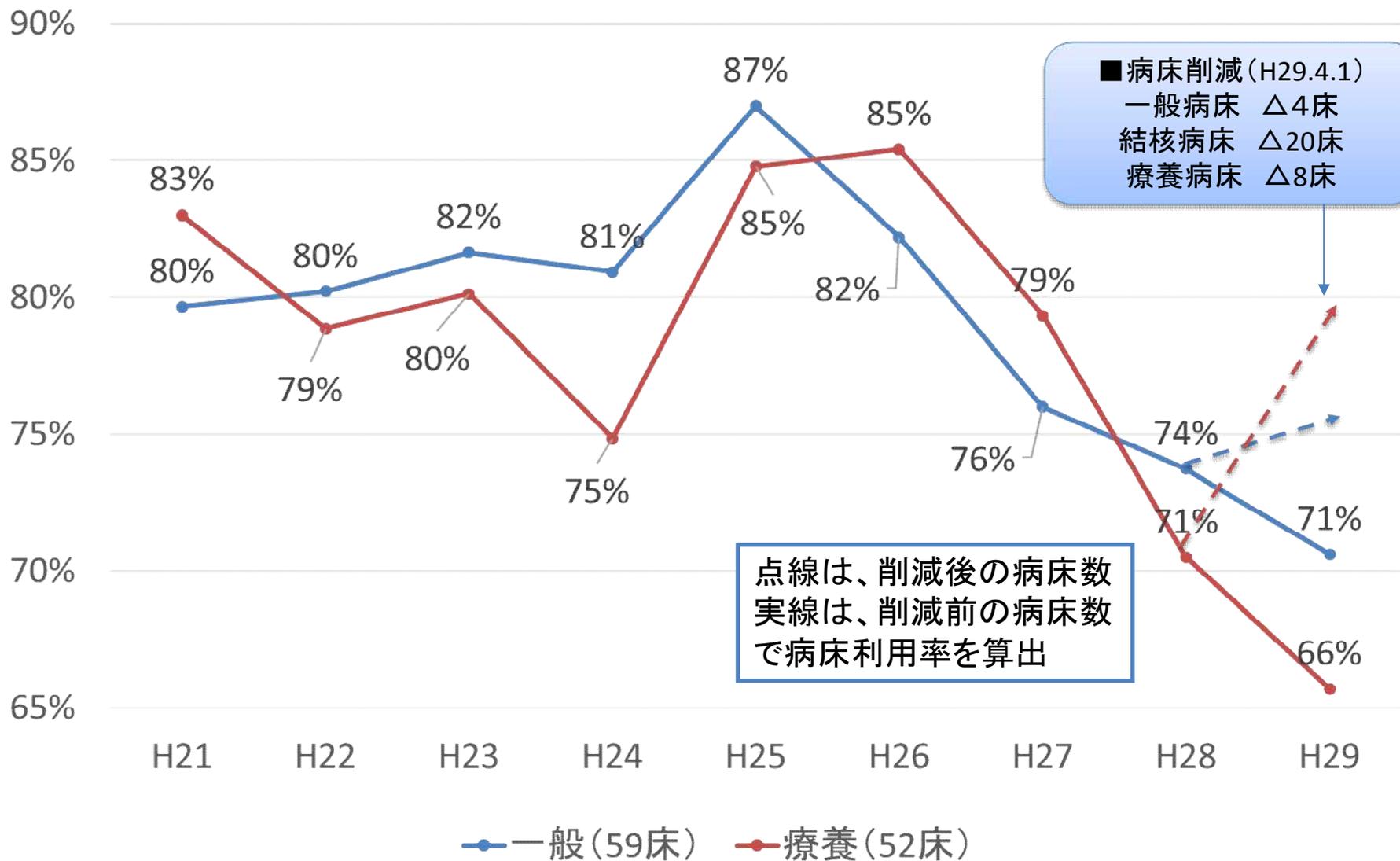
2. 機能分担と連携 ②嶺北地域内

- 嶺北中央病院が急性期・回復期の主な入院機能を担い、回復期を過ぎた後は、民間医療機関に移行する連携は良好
 - 嶺北中央病院の入院患者の入院前から退院後（転院後）までの流れの実態把握で確認
- 嶺北中央病院の療養病床と民間病院の療養病床等との役割分担
 - 現状では、透析患者や医療区分が低いが退院が困難な患者などを受入れるなど、一定のすみわけができていますか？
- 詳細は、嶺北中央病院の「新公立病院改革プラン」の説明を受けて協議

2. 機能分担と連携 ③病床機能再編

- 急性期と回復期の再編
 - 平成27年度以降、急速に病床利用率が低下
 - H29年、H30年に病床削減
 - 今後の再編方針？
- 慢性期の縮小と転換
 - 平成24年頃から病床利用率が低下
 - 今後も、人口減に伴い年間1.5%程度低下
 - 新たな施設類型も含めた縮小と転換？

病床利用率の年次推移(嶺北中央病院)



稼働していない結核病床を除いて利用率を算出